

ワールド ウッド トレンド

No. 9, 2 DEC 2015

1. 米国林業の復活につながると期待される木造高層建築

米国は世界で最も高い生産性をもつ森林を有している。米国環境保護庁によれば、木材製品の販売は毎年 2000 億ドルを生み出し、百万人もの雇用を創出している。

米国の地主や管理者が直面している現実、米国における木材価格が 1980 年代以来のインフレーションに伴う上昇がみられないことである。ワシントン州において、米国住宅危機は、日本の経済停滞と中国の景気減速と合わさって、林業業界に大きな打撃を与えている。米国の製材業者は、手厚く助成されているカナダと長期に亘って締結している貿易協定が国内製材生産をさらに停滞させかねないと主張する。

全米における、米国材の生産は過去 50 年に亘って、年 2%以下である。ワシントン州西部における木材生産量は 1990 年から 2002 年で、43%落ち込んだ。2 大生産州であるワシントン州とオレゴン州における木材生産量は、米国森林局の太平洋北西部リサーチ研究所によるチャートが示すように 1980 年代から減少している。

米国林業は転換を迫れている。多くの建築家や設計者が、ワシントン州などにおける停滞する林業を立て直すような新しい木造高層建築の構想がまもなく具体化されるだろう、と予見している。反対者は、木造高層建築はあくまで理想であり、また時代に逆行するものである、しかも危険であると主張する。しかし、大手建築会社と政府関係者は農村地方における雇用創出と都市部の継続的な発展に寄与する可能性があるとしている。

新素材、CLT (クロス・ラミネイティド・ティンバー) の発明が木造高層建築を広く受け入れさせる最も重要なきっかけとなった。CLT は合板に似た集成板で、3~9 枚のひき板を木目が直交するように重ねて接着されて、非常に強力である。小さな端切れ板から作れるので、地主は枝や先端といった木の不要部分を CLT

製材工場に売ることができ、工場ではこうした端材が付加価値の高い製品に生まれ変わることができる。

今年初めには、建築政策において建築基準法を改正し、世界に木造高層建築を定着させるような大きな一歩みを踏み出した。擁護者は、米国初となる木造高層建築が建設されるのは時間の問題だと言う。事実、米国農務省は年末までに全米デザインコンテストの優勝者を発表するという。政府は優勝者には80フィート（約24m、6階建て相当）の木造建築物を建てるための賞金2百万ドルを与える。

この熱狂に関わらず、農務省の賞金授与のアイデアはすぐに取り掛かれるものではない。木材支援者は、この新建築の責任を負かされる開発業者に、木造高層建築のメリットを説得せねばならない。また、鉄鋼やコンクリート業界がそう簡単にはさせないだろう。彼らは木造高層建築は火災による危険性があり、また長期投資としては向かないと、この動向に異を唱える。

立派な挑戦ではあるが、木造高層建築擁護者も構想は始まったばかりだと言う。しかし、鉄鋼やコンクリート業界の懸念に対しては、木材の長所は建築観点からも明白であると反論する。CLTは、価格においても鉄鋼やコンクリートに対抗できるであろうし、また短期間で施工が可能である。また、はるかに軽量で、建造物の重量を60~70%減らすことができる。そのことは、シアトルのような地震地域には有効である。木造建築は突然の揺れによる衝撃をたやすく吸収できるからだ。また建築家も木材が彼らのデザインに暖かさと自然な趣が融合することを前向きに捉えている。

2. 北米の原木、製材品の輸出

2015年の5ヶ月にわたる米国からの針葉樹と広葉樹の主要輸出市場の大幅減少（特に中国）は、中国の景気減速、ドル高、住宅復興による国内の木材需要増が合わさった結果である。

2010年に最後の二桁成長（10.4%）を記録して以来、中国経済はこの5年で30%減速した。特に顕著なのは2011年と2012年に報告された9.3%と7.7%の成長率である。過去2年では、成長減速が劇的に和らいだが、それは様々な景気刺激策によるものである。IMF国際通貨基金とUBS銀行は2015年の中国の経済成長率を6.8%と見込んでいるが、他者は、さらに悲観的である。中国公式データによると、2015年の5月まで、中国における不動産への投資は5.1%増え、そのうち、居住用建物への投資は2.9%上がったが、これは前月より減少している。また、不動産開発業者による土地購入価格は大幅下落（-30%）している。

今後2～3年中国の経済成長率は不動産バブル、工場生産過剰、新成長原動力の不足により、低下するのはほぼ確実と思われる。

日本もまた北米木材供給の主要な輸出市場である。日本はオリンピック会場および関連施設に木材を振興している。東京都によると、選手宿舎、その他仮施設、オリンピック・エコ・ビレッジ、売店、娯楽施設などへの木材使用を検討している。新国立競技場では、メイン会場の内装やスタジアム観客席、内装に木材使用が期待される。

急成長と遂げているインド市場は北米・欧州の針葉樹製材業者の注目を浴びている。一般的にインドでは、熱帯広葉樹が好まれるが、熱帯木材、特にチーク材の供給が不足しており、インドの製造業者は温帯広葉樹、また針葉樹の使用も増やしている。

木材消費の半分以上がドア、窓枠、家具、木工製品であり、製造業者は、広葉樹材を針葉樹材で代用し始めている。ニュージーランドは長年インドにラジアタパイン原木を輸出してきたが、最近では、針葉樹製材品を輸出している。

米国はサザンパインを、ドイツはマツとトウヒの製材品をインドに輸出している。カナダは外装材使用における熱帯樹種に対抗すべく、ダグラスモミ、ベイスギ、アメリカツガの売上増を狙っている。

3. 北米の原木、製材品の価格

米国の木材価格は2015年の第1から第2四半期にかけて上昇傾向にある。緩やかな住宅市場の回復と合わせて米国製材生産も徐々に上向いている。生産高減少にもかかわらず、米国の木材供給量は第1四半期において、急激な輸入増加と輸出減少によりいくらか増加した。第1四半期における価格下落により、西海岸における製材工場での一時的な停止や米国生産レベルの減速が報告されている。しかし、第2四半期における価格の回復に伴い、米国での生産が増加し始め、輸入減を埋め合わせる。

木材価格の変動は需要供給変化を反映する。需要サイドでは、新築住宅建築が予測不可能な傾向が続いている。四半期ベースで、米国住宅着工件数が、第1四半期には天候により、7.6%下がった後、第2四半期には13.4%上昇した。商務省によると、米国住宅着工件数は月ベースで、4月に22.2%上昇したにもかかわらず、5月には11.1%減少した。こうした変動にもかかわらず、傾向としては短期的には木材価格を支える方向にある。海外からの需要を見ると、中国や日本からの需要減少のみならず、為替レートもまた影響を及ぼしていることがわかる。米国による中国、日本への輸出は第1四半期において、かなり落ち込んでいるが、カナダはより有利な為替レートにより輸出を伸ばしている。しかしながら、中国の輸入落込みが年初からの価格を引下げるもう一つの需要要因となっている。

7月に針葉樹材が安売りされると、8月の到来と共に疑念が浮き上がった。同月SLA協定による輸出税が下がり、有利な為替レートの状況下、SPF製材工場が市場にどうアプローチするか、全注目がカナダに注がれた。現金払価格と比較して9月以降の大幅な値引きが市場において重くのしかかりながらも、バイヤーは北域からの大量入荷を期待している。

	Jul 31 週	Jul 24 週	2014 年
ランダムレングス紙 15 種平均価格	\$332	\$340	\$385
KD Western S-P-F #2&Btr 2x4 R/L Mill Price	278	295	348
KD Eastern S-P-F #1&2 2x4 R/L, delivered Great Lakes	375	380	440
Green Douglas Fir Std&Btr 2x4 R/L (Portland)	340	351	342
Southern Pine (Westside) #2 2x4 R/L	330	325	443
KD Coast Hem-Fir #2&Btr 2x4 R/L	325	335	367
Ponderosa Pine (Inland) #2&Btr 1x12 R/L	665	665	690

(本文は現地レポートを基に編集したもの)